

公益財団法人 がんの子どもを守る会  
Children's Cancer Association of Japan  
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12  
電話:03-5825-6311(代表)  
<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索

 公益財団法人 がんの子どもを守る会







## 2012年度事業報告書

2012年4月1日~2013年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT

Apr.01,2012~ Mar.31,2013

## CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2012年度収支報告	6
 2012年度事業概況	
① 療養援助事業	11
② 相談事業	12
③ 治療研究事業	17
④ 総合施設運営事業	18
⑤ 小児がん・難病対策	19
⑥ 支部活動	20
⑦ 広報・啓発・募金活動 等	22
⑧ 国際活動	24
⑨ ボランティアコーディネート・研修会	25
⑩ 日本小児血液・がん学会事務局	25
⑪ 調査研究協力	26
⑫ 平成24年度年次大会開催	27
⑬ 企業・団体からのご協力	27
 寄付・募金者一覧	28

### 「がんの子どもを守る会」について

がんの子どもを守る会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって設立され、小児がん患者とその家族が直面している困難や悩みが少しでも軽減されるように活動しています。

日本では年間約2,000人の子どもたちがあらたに小児がんと診断されています。

小児がんの治療は外科的治療、放射線治療に化学療法を加えた集学的治療により目覚ましい進歩を遂げ、現在では病気によっては約8割の子どもたちが長期生存できるようになっています。とはいえ小児がんは子どもの病死順位の第一位を占めており、年間約500人の幼い命が失われていることも忘れてはなりません。

小児がんの治療は長期に及びます。そのため家族の二重生活、治療中の学校や幼稚園などの問題、進学や就職、結婚出産など様々な課題があります。そのために周囲のサポートが必要になってきます。

#### 当会の事業

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 小児がんに関する知識の普及・啓発事業 | 4 小児がんに関する支援事業          |
| 2 小児がんに関する調査・研究事業    | 5 小児がん・小児難病に関する宿泊施設運営事業 |
| 3 小児がんに関する相談事業       |                         |

### 理事長あいさつ

昨年4月に公益財団法人として新たな一歩を踏み出しました当会は、“小児がんを治る病気にしたい”、そして“自分たちと同じ苦しみ味わう家族の無い世にしたい”と云う、創立以来変わることの無い親たちの思いを原点に、これまでと同様に多くの事業を継続し公益財団法人としての初年度を終えました。そして、公益財団法人として二年目の本年秋には、財団発足45周年を迎えます。このような節目を前に、公益財団法人としての初めてとなる、2012年度の事業報告書をまとめましたので、ご高覧ください。



昨年度は、公益財団への改組を機に整備しました諸制度と、刷新された事務局体制の下で、過去数年続いていた運営収支の赤字を縮小すべく、大幅な緊縮予算を立案し事業を進めてまいりました。その結果、事業の実施面ではほぼ計画通りの成果を挙げる事ができましたが、財政面では厳しい経済環境の継続に加え、業務改善等で努力の至らない点もあり、昨年度よりはマイナスの幅を大きく減らすことは出来たものの、大変残念ながら再び赤字決算をご報告しなければならない結果となっております。

しかし一方で、事業内容の再検討等や運営効率の改善等、この一年の努力の結果により、2012年度決算では明らかな成果を上げることが出来なかった事項について、2013年度以降で改善が期待できるものも見えてきております。このことから、本年度以降の更なる努力により、時代の変化に即した事業展開を持続的に推進していく体制の実現が可能であることを確信しております。

さて、小児がんの治療率の向上という喜ばしい事実の一方で、増えていく小児がん経験者に対する支援の強化が重要になってきていることについては、以前より機会あるごとに申し上げてまいりましたが、将来を見据えた新たな事業展開の一つとして、2013年度は小児がん経験者を対象とする自立支援・助成事業強化の具体化を検討しておりますが、その詳細につきましては、事業計画が確定した時点で改めて公表させていただきます。

私どもは、このような時代の変化に沿った事業の展開・強化を進めると同時に、様々な努力により事業収支の改善を図るといふ、難しい命題に直面しております。事業に必要なすべての原資を個人、企業・団体の皆様のお志に依拠している当会にとって、この命題を解決し長期的に持続的かつ安定的な事業継続を実現するためには、皆様の更なるご支援が必須と考えております。

医療の進歩により、小児がんの治療率は飛躍的に改善されては来ておりますが、小児がんが子どもの病気による死因の第一位であるという事実は変わっておりません。皆様の日頃のご理解とご支援に心から感謝申し上げます。小児がんを取り巻くこのような現実をご理解いただきまして、引き続きのご支援をお願いする次第でございます。

2013年6月

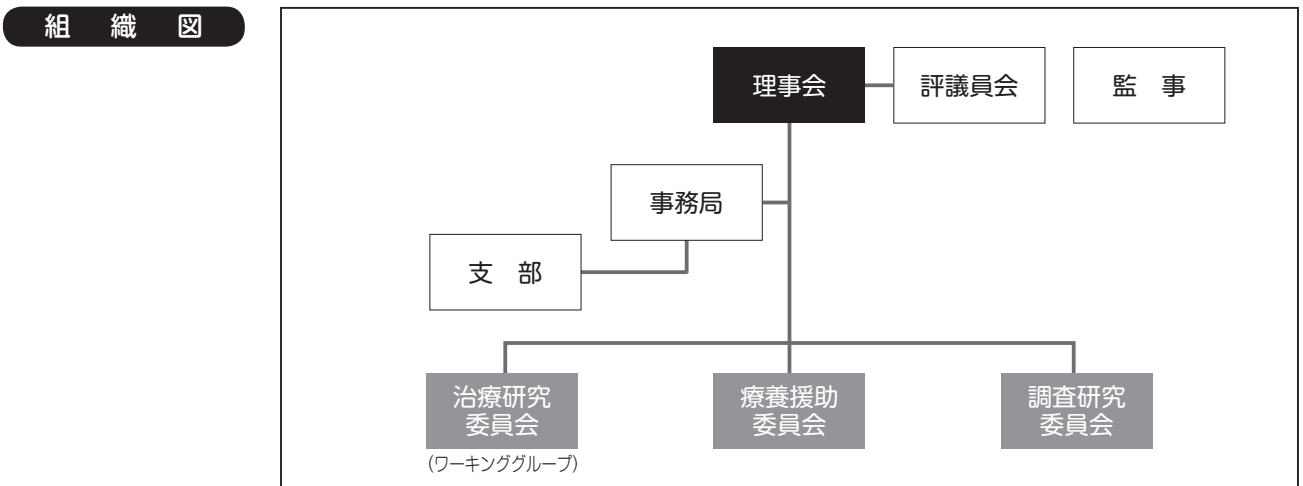
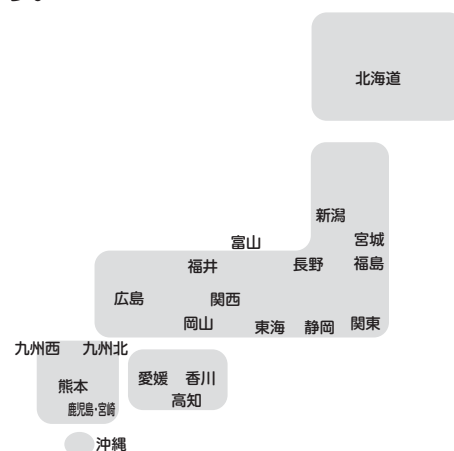
公益財団法人 がんの子どもを守る会  
理事長 山下 公輔

- 名称** 公益財団法人 がんの子どもを守る会
- 設立** 1968年10月31日
- 設立趣旨** 当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
- 主務官庁** 内閣府
- 主たる事務所** 浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12  
TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
- 従たる事務所**
  - 亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4  
TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553
  - 大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1  
TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
- 組織**
  - 理事長 山下公輔
  - 理事 10名、監事2名
  - 評議員 12名
  - 職員 20名
  - 普通会員 2,886 (法人 36 個人 2,850)

**支部** 全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

### 21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、鹿児島・宮崎、沖縄



### 役員名簿

- 理事長** 山下 公輔 親/ブライスウォーターハウスコーポレーション株式会社 シニアアドバイザー
- 副理事長**
  - 細谷 亮太 聖路加国際病院 小児科/当会嘱託医
  - 近藤 博子 親/元当会ソーシャルワーカー
- 理事**
  - 橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役  
元 東京大学医学部附属病院 小児外科
  - 松井 秀文 NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長
  - 張 光陽 親/当会九州北支部幹事
  - 増子 孝徳 親/のぞみ法律事務所
  - 坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事
  - 森下 さふみ 親/当会関西支部 幹事
  - 池田 小霧 親/すくすく(網膜芽細胞腫の子どもをもつ家族の会) 代表
  - 石川 幹雄 当会事務局長
- 監事**
  - 高橋 和子 親/当会九州北支部 代表幹事
  - 三川 勝夫 親/三川会計事務所
- 評議員**
  - 河 敬世 日本赤十字社近畿ブロック血液センター 所長
  - 深澤 重幸 親/コトブキシーティング株式会社 会長
  - 西田 知佳子 元 聖路加国際病院 医療社会事業課 ソーシャルワーカー
  - 平野 朋美 埼玉県立小児医療センター 医療相談室 ソーシャルワーカー
  - 平澤 一郎 小児がん経験者/長岡こども・医療・介護専門学校
- 幸島 静枝** 親
- 稲田 浩子** 久留米大学病院 小児科
- 中村 美智子** 小児がん経験者
- 鈴木 中人** 親/当会東海支部 代表幹事
- 隈部 俊宏** 東北大学大学院医学系研究科 神経科学分野
- 田中 徹** 親/日本経営システム株式会社
- 本橋 由紀** 株式会社毎日新聞社 東京本社 福島支局長
- 療養援助委員会**
  - 西村 昂三 元 聖路加国際病院 小児科
  - 横山 穰太郎 元 慶応義塾大学医学部 小児外科
  - 星 順隆 国際医療福祉大学 保健医療学部 (山王病院 小児科)
  - 別所 文雄 杏林大学医学部 小児科
  - 黒田 達夫 慶應義塾大学 医学部 小児外科
  - 花田 良二 埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科
  - 前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科
- 調査研究委員会**
  - 橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役
  - 細谷 亮太 聖路加国際病院 小児科
  - 星 順隆 国際医療福祉大学 保健医療学部 (山王病院 小児科)
  - 岩田 敬治 当会名誉理事長
  - 山下 公輔 当会理事長
- 治療研究委員会ワーキンググループ**
  - 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科
  - 黒田 達夫 慶應義塾大学医学部 小児外科
  - 野崎 美和子 獨協医科大学越谷病院 放射線科
  - 逸見 仁道 東邦大学医学部 分子生物学研究室



# 会の歴史

1962	設立趣意書作成	1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行
1966	NHKカメラリポートで紹介	1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会	1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金	1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1969	小児がん全国登録開始	1998	創立30周年記念 第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情	1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現	2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足	2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置	2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会 「病気の子どもの気持ち～小児がん経験者のアンケートから～」刊行
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足	2003	九州南支部が鹿児島支部と熊本支部となる 鹿児島支部設立総会／熊本支部設立総会 第1回小児がん経験者の会リーダー会議 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行	2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
1976	6.23 特定公益増進法人の認定	2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会	2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童年記念小児がん国際シンポジウム	2008	創立40周年記念事業 がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
1981	新潟支部設立総会	2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成 高知支部設立総会
1984	12.1 日本小児がん研究会発足	2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）	2011	東日本大震災緊急療養援助実施
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章	2012	公益財団法人移行認定
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム		
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会		
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成		



# 2012年度収支報告 (2012年4月1日～2013年3月31日)



## 正味財産増減計算書

(単位：円)

科目	公益目的事業	法人会計	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
<b>(1) 経常収益</b>			
財産運用益	302,835	0	302,835
普通預金利息	44,385		44,385
定期預金利息	258,450		258,450
受取寄付金	164,110,998	34,681,154	198,792,152
特定寄付金	5,955,620		5,955,620
一般寄付金	34,681,153	34,681,154	69,362,307
指定寄付金	123,474,225		123,474,225
三重ファミリールーム指定寄付金	1,610,000		1,610,000
海外留学助成指定寄付金	4,000,000		4,000,000
施設運営指定寄付金	114,930,225		114,930,225
国際交流指定寄付金	2,934,000		2,934,000
受取補助金等	6,656,200	0	6,656,200
受取助成金	6,656,200		6,656,200
受託料	6,000,000	0	6,000,000
学会業務受託料	5,000,000		5,000,000
調査研究受託料	1,000,000		1,000,000
受取利用料	10,371,700	0	10,371,700
施設利用料	9,335,900		9,335,900
リネン利用料	1,035,800		1,035,800
雑収益	4,847,227	0	4,847,227
雑収益	4,847,227		4,847,227
指定正味財産からの振替額	28,996,161		28,996,161
繰入額	0		0
経常収益計	221,285,121	34,681,154	255,966,275
<b>(2) 経常費用</b>			
事業費	221,093,938	0	221,093,938
人件費	72,045,902	0	72,045,902
法定福利費	8,217,665		8,217,665
給与	60,012,284		60,012,284
福利厚生費	137,893		137,893
退職給付費用	3,678,060		3,678,060
助成費	35,125,000	0	35,125,000
療養助成費	31,125,000		31,125,000
調査研究助成費	4,000,000		4,000,000
活動費	85,127,256	0	85,127,256
会議費	1,781,488		1,781,488
旅費交通費	12,566,567		12,566,567
通信運搬費	3,457,295		3,457,295
消耗品費	1,841,058		1,841,058
印刷製本費	1,158,561		1,158,561
光熱水料費	11,525,614		11,525,614
保険料	91,538		91,538
諸謝金	1,416,260		1,416,260
業務委託費	36,560,000		36,560,000
広報費	5,156,012		5,156,012
支援費	901,910		901,910
図書資料費	343,647		343,647
保健衛生費	915,399		915,399
ゴールドリボン制作費	1,251,180		1,251,180
宿泊施設運営費	2,135,372		2,135,372
租税公課	6,000		6,000
リネン賃借料	855,475		855,475
事業協力費	647,000		647,000
会場費	1,354,535		1,354,535
雑費	1,162,345		1,162,345
減価償却費	28,795,780	0	28,795,780
建物減価償却額	23,625,997		23,625,997
建物附属設備減価償却額	2,460,679		2,460,679
ソフトウェア減価償却額	460,058		460,058
什器備品減価償却額	2,249,046		2,249,046

科目	公益目的事業	法人会計	合計
管理費		103,711,381	103,711,381
人件費		46,303,005	46,303,005
給与		37,448,313	37,448,313
法定福利費		6,315,254	6,315,254
福利厚生費		87,398	87,398
退職給付費用		2,452,040	2,452,040
活動費		51,841,558	51,841,558
会議費		1,593	1,593
旅費交通費		1,351,940	1,351,940
通信運搬費		2,960,064	2,960,064
消耗品費		496,394	496,394
修繕費		2,780,543	2,780,543
印刷製本費		3,067,162	3,067,162
光熱水料費		1,519,618	1,519,618
保険料		1,431,136	1,431,136
業務委託費		548,100	548,100
図書資料費		51,700	51,700
衛生管理費		3,415,835	3,415,835
保守料		11,738,498	11,738,498
リース料		4,863,784	4,863,784
支払報酬		3,480,742	3,480,742
租税公課		11,037,650	11,037,650
消耗什器備品費		29,900	29,900
植栽管理費		860,080	860,080
雑費		1,361,155	1,361,155
借地料		845,664	845,664
減価償却費		5,566,818	5,566,818
建物減価償却額		3,068,724	3,068,724
建物附属設備減価償却額		331,008	331,008
ソフトウェア減価償却額		541,117	541,117
什器備品減価償却額		1,625,969	1,625,969
経常費用計	221,093,938	103,711,381	324,805,319
評価損益等調整前当期経常増減額	191,183	△69,030,227	△68,839,044
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	191,183	△69,030,227	△68,839,044
<b>2. 経常外増減の部</b>			
<b>(1) 経常外収益</b>			
経常外収益計	0	0	0
<b>(2) 経常外費用</b>			
什器備品除却損	9,641	0	9,641
経常外費用計	9,641	0	9,641
当期経常外増減額	△9,641	0	△9,641
他会計振替額			0
当期一般正味財産増減額	181,542	△69,030,227	△68,848,685
一般正味財産期首残高	686,727,966		686,727,966
一般正味財産期末残高	686,909,508	△69,030,227	617,879,281
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
受取寄付金	167,629,717	0	167,629,717
基本財産受取利息	1,338,351	0	1,338,351
一般正味財産への振替額	△152,470,386	0	△152,470,386
当期指定正味財産増減額	16,497,682	0	16,497,682
指定正味財産期首残高	1,886,091,736	0	1,886,091,736
指定正味財産期末残高	1,902,589,418	0	1,902,589,418
<b>III 正味財産期末残高</b>	2,589,498,926	△69,030,227	2,520,468,699



## 正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	一般会計	AFLACベアレンツ ハウス特別会計	三重ファミリー ルーム特別会計	メイソン財団 小児がん骨髄移植 基金特別会計	ゴールドリボン 基金特別会計 (*1)	小児がん経験者・ がん遺児奨学金 特別会計 (*2)	内部取引消去	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>								
<b>1. 経常増減の部</b>								
<b>(1) 経常収益</b>								
財産運用益	284,233	15,291	2,414	897	0	0		302,835
普通預金利息	25,783	15,291	2,414	897	0	0		44,385
定期預金利息	258,450	0	0	0	0	0		258,450
受取寄付金	83,741,927	114,930,225	1,610,000	0	0	0	△1,490,000	198,792,152
特定寄付金	5,955,620	0	0	0	0	0		5,955,620
一般寄付金	69,362,307	0	0	0	0	0		69,362,307
指定寄付金	8,424,000	114,930,225	1,610,000	0	0	0	△1,490,000	123,474,225
三重ファミリールーム 指定寄付金	1,490,000	0	1,610,000	0	0	0	△1,490,000	1,610,000
海外留学助成指定寄付 金	4,000,000	0	0	0	0	0		4,000,000
施設運営指定寄付金	0	114,930,225	0	0	0	0		114,930,225
国際交流指定寄付金	2,934,000	0	0	0	0	0		2,934,000
受取補助金等	656,200	0	0	6,000,000	0	0		6,656,200
受取助成金	656,200	0	0	6,000,000	0	0		6,656,200
受託料	6,000,000	0	0	0	0	0		6,000,000
学会業務受託料	5,000,000	0	0	0	0	0		5,000,000
調査研究受託料	1,000,000	0	0	0	0	0		1,000,000
受取利用料	554,000	9,648,800	168,900	0	0	0		10,371,700
施設利用料	554,000	8,613,000	168,900	0	0	0		9,335,900
リネン利用料	0	1,035,800	0	0	0	0		1,035,800
雑収益	4,837,227	10,000	0	0	0	0		4,847,227
雑収益	4,837,227	10,000	0	0	0	0		4,847,227
指定正味財産からの振替額	0	27,279,427	1,716,734	0	0	0		28,996,161
繰入額	36,827,436	0	0	0	0	0	△36,827,436	0
経常収益計	132,901,023	151,883,743	3,498,048	6,000,897	0	0	△38,317,436	255,966,275
<b>(2) 経常費用</b>								
事業費	111,784,470	103,830,988	2,198,480	4,770,000	0	0	△1,490,000	221,093,938
人件費	47,516,764	24,529,138	0	0	0	0		72,045,902
法定福利費	5,034,443	3,183,222	0	0	0	0		8,217,665
給与	38,783,275	21,229,009	0	0	0	0		60,012,284
福利厚生費	20,986	116,907	0	0	0	0		137,893
退職給付費用	3,678,060	0	0	0	0	0		3,678,060
助成費	30,355,000	0	0	4,770,000	0	0		35,125,000
療養助成費	26,355,000	0	0	4,770,000	0	0		31,125,000
調査研究助成費	4,000,000	0	0	0	0	0		4,000,000
活動費	33,786,706	52,348,804	481,746	0	0	0	△1,490,000	85,127,256
会議費	1,768,593	12,895	0	0	0	0		1,781,488
旅費交通費	11,964,327	602,240	0	0	0	0		12,566,567
通信運搬費	2,611,437	845,858	0	0	0	0		3,457,295
消耗品費	665,944	1,175,114	0	0	0	0		1,841,058
印刷製本費	1,127,061	31,500	0	0	0	0		1,158,561
光熱水料費	0	11,143,868	381,746	0	0	0		11,525,614
保険料	91,538	0	0	0	0	0		91,538
諸謝金	1,416,260	0	0	0	0	0		1,416,260
業務委託費	0	36,560,000	0	0	0	0		36,560,000
広報費	5,156,012	0	0	0	0	0		5,156,012
支援費	901,910	0	0	0	0	0		901,910
図書資料費	50,067	293,580	0	0	0	0		343,647
保健衛生費	0	815,399	100,000	0	0	0		915,399
ゴールドリボン制作費	1,251,180	0	0	0	0	0		1,251,180
宿泊施設運営費	3,625,372	0	0	0	0	0	△1,490,000	2,135,372
租税公課	6,000	0	0	0	0	0		6,000
リネン賃借料	0	855,475	0	0	0	0		855,475
事業協力費	647,000	0	0	0	0	0		647,000
会場費	1,354,535	0	0	0	0	0		1,354,535
雑費	1,149,470	12,875	0	0	0	0		1,162,345
減価償却費	126,000	26,953,046	1,716,734	0	0	0		28,795,780
建物減価償却額	0	21,909,263	1,716,734	0	0	0		23,625,997
建物附属設備減価償却額	0	2,460,679	0	0	0	0		2,460,679
ソフトウェア減価償却額	126,000	334,058	0	0	0	0		460,058
什器備品減価償却額	0	2,249,046	0	0	0	0		2,249,046

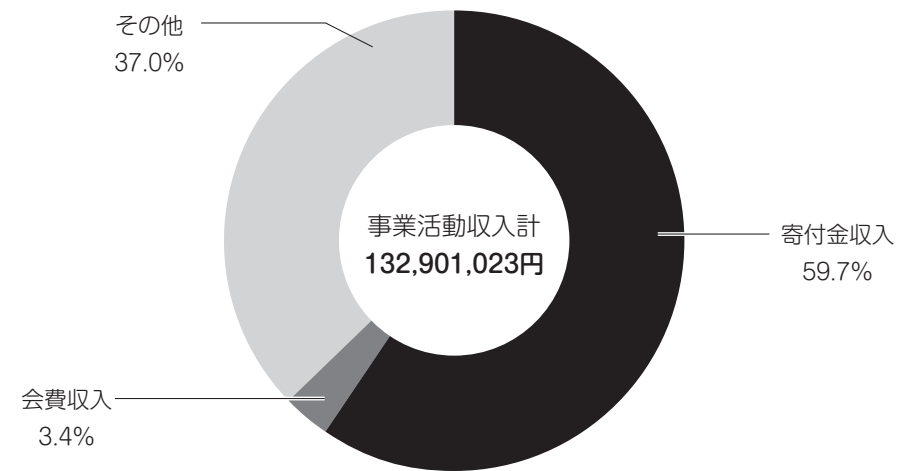
科目	一般会計	AFLACベアレンツ ハウス特別会計	三重ファミリー ルーム特別会計	メイソン財団 小児がん骨髄移植 基金特別会計	ゴールドリボン 基金特別会計 (*1)	小児がん経験者・ がん遺児奨学金 特別会計 (*2)	内部取引消去	合計
管理費	45,698,006	57,030,872	982,503	0	0	0		103,711,381
人件費	30,387,135	15,915,870	0	0	0	0		46,303,005
給与	23,675,302	13,773,011	0	0	0	0		37,448,313
法定福利費	4,190,545	2,124,709	0	0	0	0		6,315,254
福利厚生費	69,248	18,150	0	0	0	0		87,398
退職給付費用	2,452,040	0	0	0	0	0		2,452,040
活動費	13,380,920	37,478,135	982,503	0	0	0		51,841,558
会議費	1,593	0	0	0	0	0		1,593
旅費交通費	1,351,540	400	0	0	0	0		1,351,940
通信運搬費	1,400,129	1,559,935	0	0	0	0		2,960,064
消耗品費	469,334	3,588	23,472	0	0	0		496,394
修繕費	44,100	2,736,443	0	0	0	0		2,780,543
印刷製本費	2,251,804	815,358	0	0	0	0		3,067,162
光熱水料費	0	1,519,618	0	0	0	0		1,519,618
保険料	0	1,425,676	5,460	0	0	0		1,431,136
業務委託費	0	548,100	0	0	0	0		548,100
図書資料費	51,700	0	0	0	0	0		51,700
衛生管理費	0	3,415,835	0	0	0	0		3,415,835
保守料	580,020	11,096,403	62,075	0	0	0		11,738,498
リース料	2,371,020	2,492,764	0	0	0	0		4,863,784
支払報酬	3,480,742	0	0	0	0	0		3,480,742
租税公課	650,250	10,387,400	0	0	0	0		11,037,650
消耗什器備品費	0	29,900	0	0	0	0		29,900
植栽管理費	0	860,080	0	0	0	0		860,080
雑費	728,688	586,635	45,832	0	0	0		1,361,155
借地料	0	0	845,664	0	0	0		845,664
減価償却費	1,929,951	3,636,867	0	0	0	0		5,566,818
建物減価償却額	100,247	2,968,477	0	0	0	0		3,068,724
建物附属設備減価償却額	0	331,008	0	0	0	0		331,008
ソフトウェア減価償却額	504,000	37,117	0	0	0	0		541,117
什器備品減価償却額	1,325,704	300,265	0	0	0	0		1,625,969
経常費用計	157,482,476	160,861,860	3,180,983	4,770,000	0	0	△1,490,000	324,805,319
評価損益等調整前当期経 常増減額	△24,581,453	△8,978,117	317,065	1,230,897	0	0	△36,827,436	△68,839,044
評価損益等計	0	0	0	0	0	0		0
当期経常増減額	△24,581,453	△8,978,117	317,065	1,230,897	0	0	△36,827,436	△68,839,044
<b>2. 経常外増減の部</b>								
<b>(1) 経常外収益</b>								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0		0
<b>(2) 経常外費用</b>								
什器備品除却損	0	9,641	0	0	0	0		9,641
経常外費用計	0	9,641	0	0	0	0		9,641
当期経常外増減額	0	△9,641	0	0	0	0		△9,641
他会計振替額	0	0	0	0	△36,827,436	0	36,827,436	0
当期一般正味財産増減額	△24,581,453	△8,987,758	317,065	1,230,897	△36,827,436	0	0	△68,848,685
一般正味財産期首残高	461,986,023	170,894,138	15,179,322	1,841,047	36,827,436	0	0	686,727,966
一般正味財産期末残高	437,404,570	161,906,380	15,496,387	3,071,944	0	0	0	617,879,281
<b>II 指定正味財産増減の部</b>								
受取寄附金	8,424,000	114,930,225	1,610,000	0	0	44,155,492	△1,490,000	167,629,717
基本財産受取利息	1,338,351	0	0	0	0	0		1,338,351
一般正味財産への振替額	△8,424,000	△142,209,652	△3,326,734	0	0	0	1,490,000	△152,470,386
当期指定正味財産増減額	1,338,351	△27,279,427	△1,716,734	0	0	44,155,492	0	16,497,682
指定正味財産期首残高	0	1,858,969,224	27,132,512	0	0	0	0	1,886,091,736
指定正味財産期末残高	1,338,351	1,831,679,797	25,415,778	0	0	44,155,492	0	1,902,589,418
<b>III 正味財産期末残高</b>	438,742,921	1,993,586,177	40,912,165	3,071,944	0	44,155,492	0	2,520,468,699

\* 1：ゴールドリボン基金は一般会計へ繰入

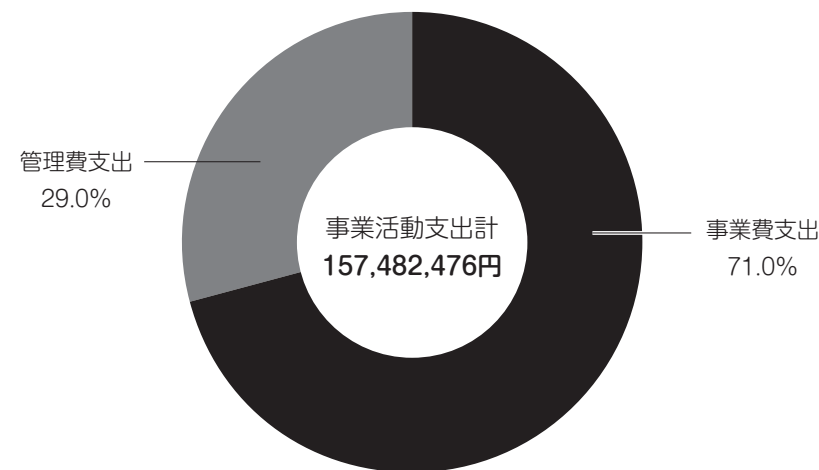
\* 2：小児がん経験者・がん遺児奨学金は2013年度より事業開始予定

収入

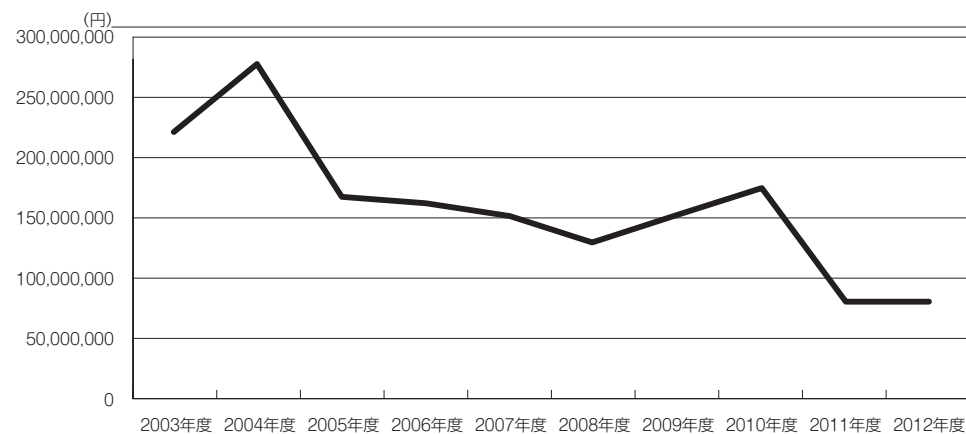
\*その他の内訳：ゴールドリボン基金からの繰り入れ、助成金、受託事業 等



支出



年次推移



1 療養援助事業

療養助成事業は、患児が等しく医療が受けられること、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的としています。療養助成には、「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類があります。それぞれ助成対象者、対象事項は以下の通りです。

■一般療養助成

- 対象者** ■ 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
- 扶養者（両親共働きの場合は合計収入）の前年の総収入が400万円以下の方
- 助成対象事項** ■ 療養のために必要な諸経費全般
- 助成金額** ■ 5万円（一人一回限りの助成）

■特別療養助成

- 対象者** ■ 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
- 助成対象事項** ■ 療養のために必要な諸経費
  - ・入院中の患児の看護・介護のために必要な付添費
  - ・病院近くに滞在することが必要なときの宿泊施設等の滞在費
  - ・病院と自宅が片道おおむね150km以上離れている場合の交通費
  - ・患児の特殊装具やカツラ作成のためにかかった経費
  - ・闘病に伴って必要となったきょうだい（未就学年齢）の保育料
  - ・造血幹細胞移植など、主治医が患児の治療上必要と認めたものに対してかかった経費（但し、健康保険の対象とならない薬剤や代替療法等にかかる経費は原則対象外）
- 助成対象期間** ■ 申請時を含む3ヶ月間
- 助成金額** ■ 20万円以内（一疾病について一回限りの助成）
- 審査** ■ 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、助成内容・金額を決定する。

■本年度決定実績（カッコ内は前年比）

	一般療養助成	特別療養助成
申請件数	138件	294件 (30件増)
助成件数	138件* (42件増)	290件 (29件増)
総助成額	6,900,000円 (2,100,000円増)	20,405,000円 (1,575,000円増)
助成額	一律50,000円	平均 70,362円 (1,783円減)

※うち19件(950,000円)は2013年度に助成



## 2 相談事業

### (1) 小児がん相談事業

日本では年間約2,000人の子どもたちが、あらたに小児がんと診断されています。当会が設立された45年前は不治の病とされていましたが、現在は医療技術の進歩により、小児がん全体の7割から8割が治るようになってきました。一方、未だ年間500人ほどの子どもが亡くなる厳しい現状もあり、小児がんは幼い命を脅かす病気の筆頭であることに変わりはありません。

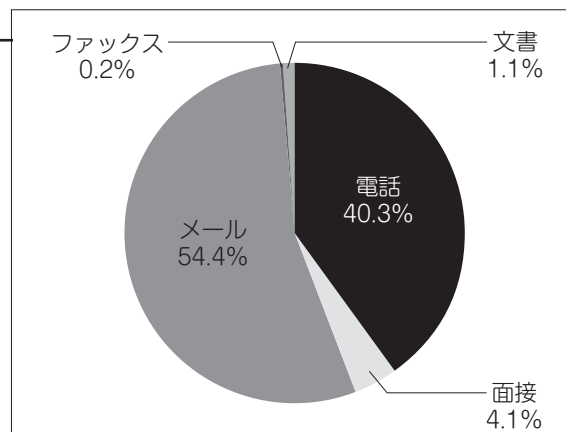
患児家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。くわえて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

このように多くの不安や悩みを抱える患児家族に対して、闘病中はもちろん、闘病を終えた後や、また子どもが亡くなった後も、継続したサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーを設置し、以来40年にわたりご相談を受けてきています。本年度は、東京と大阪の事務所に常駐するソーシャルワーカーが6名体制で、下記のような相談に応じました。

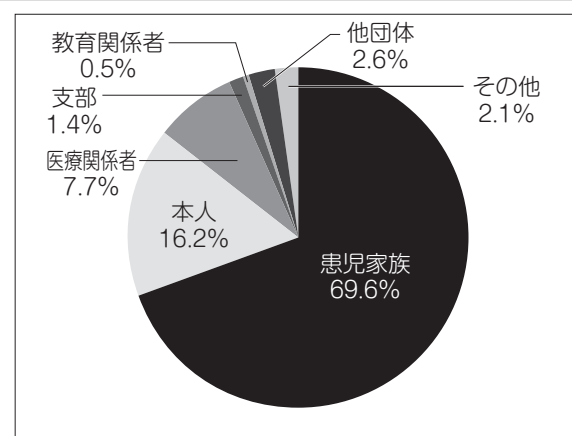
#### 1. 相談方法

(単位：件)

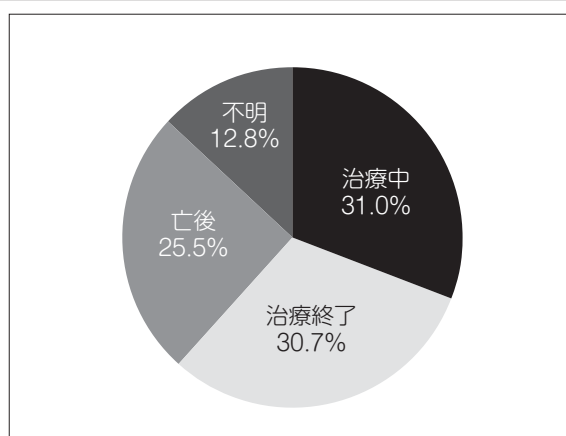
電話	1377
面接	140
メール	1861
ファックス	6
文書	36
計	3420



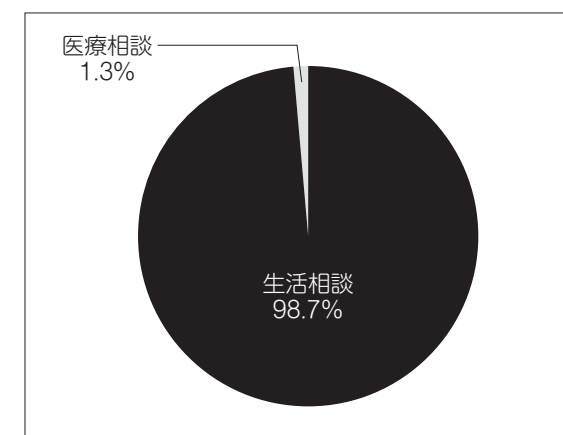
#### 2. 相談者



#### 3. 相談時期

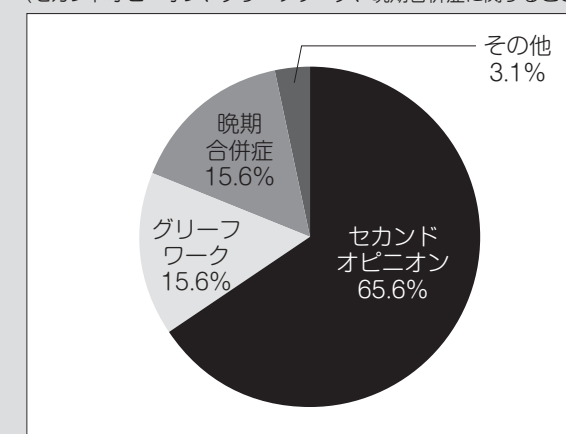


## 4. 相談内容



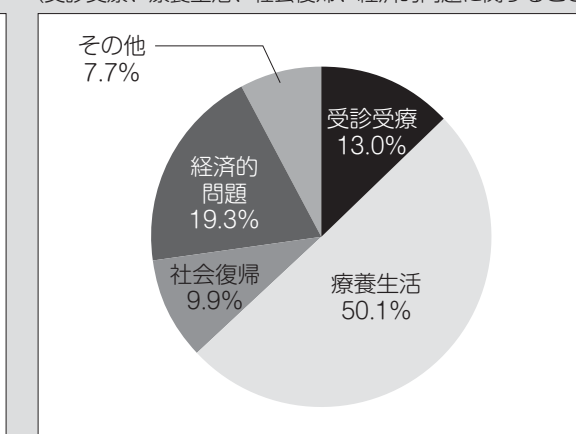
#### ■医療相談

(セカンドオピニオン、グリーフワーク、晩期合併症に関すること)



#### ■生活相談

(受診受療、療養生活、社会復帰、経済的問題に関すること)



\* 昨年の報告数より大幅減となっておりますが、これは件数のカウント対象を「医療相談」「生活相談」に絞ったためです。

## (2) 講演会・交流会の開催

同じ疾患を持つ患児家族の交流や勉強会等を目的として次のような会を開催しました。

### ①疾患別の相談会

年月日	内容	講師・相談医	会場
2012.8.18	横紋筋肉腫の会	「横紋筋肉腫に対する治療（過去・現在・未来）」 陳 基明 先生 日本大学医学部附属板橋病院小児科	東京(本部)
9.22	脳腫瘍の会	「こどもの脳腫瘍」 隈部 俊宏 先生 東北大学大学院医学系研究科 神経外科学分野	東京(本部)
10.13	骨軟部腫瘍の会	「肉腫ってなに？」 矢澤 康男 先生 埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター骨軟部組織腫瘍科・整形外科	東京(本部)





## ②個別相談会

年月日	内容	相談医	会場
2013.1.22	内分泌	西 美和 先生 広島赤十字・原爆病院 小児科	大阪
1.26	内分泌*	石黒 寛之 先生 東海大学医学部付属病院 小児科	東京(本部)
1.29	小児がんに関すること全般	細谷 亮太 先生 聖路加国際病院 小児科	大阪
2.14	小児がんに関すること全般	細谷 亮太 先生 聖路加国際病院 小児科	東京(本部)

\*講演会も同時開催

## (3) 子どもを亡くした家族の会

### ①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、東京、大阪両事務所にて交流会を年8回開催しました。各回とも、当会ソーシャルワーカーの司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

### ②短期集中サポートグループ

子どもを亡くしたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しています。本年度はグループの開催には至りませんでした。前年度のグループの同窓会を開催しました。

### 〈2011年度サポートグループの同窓会〉

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップもかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。本年度は、2011年春、秋、冬に開催した3グループの同窓会を計4回行ないました。

## (4) 小児がん経験者への支援活動

### ①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会のリーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していくうえでの悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2001年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

本年度は11月4日に大阪市立青少年センターにて開催し、全国から8グループ14名が参加し、府県を越えて選出された4名の幹事が企画・運営を担当しました。ロンドンにて開催されたICCCPO（国際小児がん親の会連盟）年次総会・会合に派遣された2名から参加報告が行われ、続いて各会の活動報告や今後のリーダーの集いの運営方法やあり方について意見が交わされました。リーダー同士の情報交換の場としてfacebook等の活用もあげられ、今後に向けた課題も確認されました。

## ②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は4団体に計12万円の活動費の支援を行いました。

## ③Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー) / WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の2012年6月に開催された総会及び9月、12月、2013年2月に開催された定例会に当会ソーシャルワーカーが参加し、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」の2012年6月(名古屋市)、2012年12月(津市)の定例会に当会ソーシャルワーカーが参加し、運営の助言や参加者の支援を行いました。

## ④スマートムンストーンキャンプ

2012年7月28日から30日まで山梨県北杜市清里のキープ自然学校にて第16回スマートムンストーンキャンプ(SMS)を開催いたしました。SMSは告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。2011年からは、キャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くしていきながらも新しい仲間を迎えられるよう運営スタッフ主体のキャンプから「小児がん経験者が主体となって運営するキャンプ」を目指し運営形態を変え、本年度からは当会の事業として企画運営はボランティアを中心とした実行運営グループが行うことになりました。本年は参加者12名、ボランティア18名、キャンプリーダーの稲田浩子先生(久留米大学小児科)と地域ボランティア3名を含む実行運営グループ7名、顧問である細谷亮太先生(聖路加国際病院小児科)の38名で開催しました。尚、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

## (5) 親の会支援

### ①親の会支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、20団体に計58万5千円の活動費の支援を行いました。

### ②親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

16回目となる今回は2012年5月26日に初めての関西地域での開催となりました。京都大学杉浦ホールを会場に全国から15団体42名の参加がありました。当日は、同大学医学部附属病院を活動拠点とする「きょうとたんぼの会」幹事のもと、同大学iPS細胞研究所副所長の中畑龍俊先生から「iPS細胞



の研究が未来にもたらす光～小児疾患を中心に～」と題して講演が行われ、続いて、同大学病院ボランティアグループ「にこにこトマト」、京都市立桃陽総合支援学校分教室から活動報告がありました。その後は、グループに分かれて、「会の運営、存続、病院との関係」「入院患者（家族）との関わり」等をテーマに意見交換が行われました。

## (6) きょうだいの支援

### ①富士山登山キャンプ

小児がんの子どものかょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないため、当会では2001年より毎日新聞社との共催で小児がん患児のかょうだいのための富士登山を行っています。

本年度は、2012年7月28日から30日の日程で、参加者15名とボランティア6名、医師2名、当会より事務局長とソーシャルワーカー2名の計25名での開催でした。12回目となる今回は、参加者15名中8名が登頂にチャレンジし、全員が目標を達成できた嬉しいキャンプとなりました。2008年より開催している「きょうだいのお話会」は、年齢の小さいきょうだいの参加も増え、貴重な時間を過ごすことができている。なお、本キャンプはあいおいニッセイ同和損害保険株式会社、一般財団法人日本メイスン財団に協賛いただきました。

### ②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として2011年より小児がんのかょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものかょうだいたちが中心となって企画・運営をし、“てんとうむし”と名付けられました。同じ小児がんの子どものかょうだい同士が、こころにとめている想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、親睦会と交流会の計2回を当会セミナールーム（東京）で開催し、充実した時間を過ごしました。

## 3 治療研究事業

### (1) 治療研究助成

本年度は、事業見直しのため、治療研究委員会ワーキンググループを設置し、治療研究助成の次年度以降のあり方を検討しました。

2013年度からの募集について準備を整えました。

### (2) 海外留学助成

小児がん領域における若手オンコロジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して奨学助成を行う「Pediatric Oncology Research Fellowship」(PORF 海外留学助成制度)を2001年度から実施しています。

本年度も西日本小児がんセミナー、中外製薬株式会社の協力を得て公募を行い下記の通り助成しました。

#### ■本年度助成対象者

弘前大学付属病院 小児科 神尾 卓哉  
「Diamond-Blackfan anemia の病因解析」



## 4 総合施設運営事業

### (1) アフラックペアレンツハウスの運営事業

アフラックペアレンツハウスは小児がんなど難病の患児家族のための日本で最初に建設された総合支援センターです。遠隔地から治療のために来ている付き添い家族のための宿泊施設としてだけでなく、治療中、治療後の患児家族が抱える様々な問題に対して常駐の当会ソーシャルワーカーが相談に応じるなどの支援をしています。亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3施設は、いずれも最寄駅から徒歩5分程度の場所にある他、交通の利便性も良く、各施設を利用されたご家族の方々にも喜ばれています。運営費用については、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）並びにアフラック販売代理店及び社員の皆様からご支援をいただいています。亀戸及び浅草橋の宿泊部門の運営は認定NPO法人ファミリーハウスに委託し、大阪は宿泊部門も含め当会職員を配置し運営を行っています。利用料は1人1泊1000円で患児は無料です。



#### ■利用状況

延べ利用家族数(2012年4月1日～2013年3月31日)：亀戸(16室) 461家族／浅草橋(17室) 437家族／大阪(12室) 409家族

### (2) その他の宿泊施設の運営

#### ①あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。あかつき公園に隣接する区立住宅「あかつき住宅」の2戸を「あかつきハウス」として借り受け、当会が管理・運営しています。

室内は6畳和室と台所、トイレ、浴室があり、家具や洗濯機、食器など日常生活に必要な備品が完備されています。利用料は1部屋1泊2,000円（宿泊代と維持管理費として）です。

#### ■利用状況

延べ利用家族数：(2012年4月1日～2013年3月31日) 18家族

#### ②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患児とその家族のための宿泊施設です。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。2階建ての建物に和室4室があり、日常生活に必要な電化製品や備品等が完備され、共同スペースとして、プレイルーム（兼談話室）、バルコニー・物干し台があります。利用料は1泊1,000円、昼間の部屋風呂の利用は300円です。

#### ■利用状況

延べ利用家族数(2012年4月1日～2013年3月31日)：87家族

## 5 小児がん・難病対策

本年度は「がん対策推進基本計画」にて「小児がん」が重点項目のひとつとして定められ、小児がん拠点病院の指定へ向けた議論が重ねられました。当会でも各支部の幹事を中心としたワーキンググループを発足させ、議論を重ねたうえで厚生労働省に小児がん拠点病院の指定に関する要件についての要望書を提出いたしました。

また、各地域においても第2期がん対策基本計画の見直しの時期にあたり、当会の支部が中心となり小児がん患児家族の声を反映してもらうべく、要望書を提出する等の働きかけを行いました。

一方で難病対策として、小児慢性特定疾患及び特定疾患の見直しの動きがありました。この動きに関しても、難病対策意見交換会へ参加したり、他の小児難病の親の会の協力を得ながら要望書を提出する等、より質の高い支援制度の実現に向けて働きかけを行いました。

年月日	内 容
2012.4.15	第1回ワーキンググループ開催 小児がん拠点病院の要件について
5. 6	第2回ワーキンググループ開催 小児がん拠点病院の要件について
5.10	厚生労働省健康局長へ小児がん拠点病院の要件についての要望書提出
6.13	厚生労働大臣へ小児がん拠点病院の要件についての要望書提出
8.18	難病対策意見交換会参加（主催：厚生労働省）
9.10	厚生労働省疾病対策課訪問
9.15	第3回ワーキンググループ開催 地域がん対策、難病対策について他
9.17	47都道府県に地域がん対策の策定に際しての要望書提出（前後して各支部毎に要望書を提出）
10. 3	厚生労働省健康局長へ難病対策に関する要望書を提出
11. 9	難病対策意見交換会参加（主催：厚生労働省）
11.19	小児慢性特定疾患治療研究事業の今後のあり方と実施に関する検討会へ出席（主催：厚生労働省）
2013.1.26	第4回ワーキンググループ開催 難病対策について



## 6 支部活動

当会には全国に21の支部があります(2013年3月31日現在)。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

### (1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
4月	福井	経験者の会(いこっさ)交流会
5月	富山	定期総会・交流会「子どもが病気になったとき～小児がんの今とこれから～」
	福井	のぞみ福井小児がんセミナー2012～気持ちに寄り添う支援を考える～
	香川	支部総会・講演会「小児がん経験者の長期フォローアップ」
6月	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の会)
	新潟	あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)
	関東	交流会
	静岡	講演会「病とメンタルトレーニング」
	広島	講演・交流・総会(クリニクラウンによる講演など)
	香川	コスモの会(相談会)
	九州北	第36回九州北支部交流会「小児がん経験者のQOL」「小児がんを経験し学校や社会生活、家族や将来について」
7月	宮城	小児がん経験者の集い、家族語らいの会
	福島	市民公開シンポジウム「小児がんを理解しよう」
	新潟	支部総会 講演会「難治性小児固形腫瘍に対する新規治療の現状」
	福井	福井県難病連事業ピアカウンセリング交流会(小浜市) 病棟支援活動 のぞみお話しタイム夏祭り
	東海	虹の会(子どもを亡くした親の会)
	関西	のぞみトーク近畿2012「小児がん経験者長期フォローアップ・重要性と現状、今後の課題」「闘病者の想い」
	岡山	交流会
	香川	のぞみの会(相談会)
	静岡	ポーリング交流会
8月	広島	夏休み工作づくり
	香川	交流会・経験者の会
	九州西	小児がん経験者の体験発表会
	鹿児島・宮崎	脳腫瘍の会
9月	富山 福井	のぞみ北陸小児がん交流会(富山・福井支部合同/「石川県における小児がん治療の現状」)
	関東	講演会「女性の妊孕性(にんようせい)について」
	鹿児島・宮崎	講演会「サバイバーシップ～治療の後に会うもの」「子どもたちを支えるために」
10月	静岡	10周年記念上映会「風のかたち」
	広島	小児難病連交流会・講演会「悪性新生物」
	香川	交流会
	沖縄	医療講演会・相談会
11月	北海道	支部40周年のつどい「小児がんの子どもたち、家族とともに歩んだ40年ー細谷亮太先生を迎えて」他。はるにれの会(子どもを亡くした親の会)
	新潟	あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)

開催月	支部	内 容
11月	長野	支部総会
	九州北・関西	九州北・関西支部共催「第6回小児がん関係者たちの日韓交流」
	鹿児島・宮崎	小児がん経験者の会
12月	北海道	人形劇の会
	福井	のぞみ福井小児がん交流会坂井・あらわ地区
	静岡	コンサート&交流会
	岡山	交流会
1月	宮城	小児がん経験者の会、家族語らいの会
	福井	福井県難病連事業 教育相談・ピアカウンセリング(福井市)
	九州西	患者家族との宿泊交流会
2月	長野	赤羽貞子さん(長野県立こども病院医療相談室長)お話しのお話しの会
	静岡	交流会(子どもを亡くした親の交流会)
	関西	近畿小児がん研究会公開シンポジウム「生きがいの創造・私たちは、なぜ生まれ、なぜ死や病気や人間関係などの試練に直面するのか?」「退院を考える」
3月	高知	高知小児がんフォーラム「小児がん患者と家族が安心して適切な治療・支援を受けられるように～小児がん拠点病院との連携を考える～」
	北海道	おしゃべりCafé(交流会)
	長野	長谷川陽子さん(安曇野赤十字病院薬剤師)お話しのお話しの会
	富山	にじのかけはし(子どもを亡くした家族の交流会)
	東海	三重大講演会・相談会「小児病棟で長期入院が必要となった子どもと家族への関わり」
	福井	のぞみ福井小児がんピアサポートカフェ(鯖江市)
	愛媛	支部会「小児がんの長期フォローアップについて」「小児がんに係る施策(国/県)と守る会の対応について」、意見交換会、相談会
	九州北	第37回九州北支部交流会「小児がん経験者が患児・家族にもたらすもの」「小児がん経験者の経済的自立支援について」

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

### 支部活動の風景



### (2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に、2012年6月16～17日、および10月20～21日の2回にわたり支部連絡会を開催しました。本年度は、個人情報の取り扱い、およびピアサポーター研修を実施しました。この連絡会は実施にあたり、「長期療養の子どもたちとご家族」の支援に取り組む武田薬品工業株式会社より助成いただきました。



## 7 広報・啓発・募金活動 等

### 第17回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2012年11月30日～12月2日、第54回日本小児血液・がん学会学術集会、第10回日本小児がん看護学会のご協力を得て、パシフィコ横浜会議センター（神奈川県横浜市）において、第17回がんの子どもを守る会公開シンポジウムを下記の通り開催いたしました。絵画展・チャリティマラソンを含め延べ約1,160名の方のご参加をいただきました。

後援：厚生労働省、神奈川県、横浜市健康福祉局、公益社団法人神奈川県医師会、公益財団法人かながわ健康財団、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会、公益財団法人骨髄移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワーク

#### ■シンポジウム 小児がん経験者による企画

##### 1) 「私たちのおもいと力 ～共に生きるみらいへ～」

日 時：2012年12月2日（日）10：00～12：00

企 画：小児がん共に生きるみらい企画委員会

##### 2) イベント「ありがとう ありがとう いのちのリレー」

日 時：2012年12月2日（日）14：00～16：00

場 所：パシフィコ横浜 メインホール

企画運営：東ちづる 大谷貴子 加藤俊一 近藤博子

協 賛：サンリオ（来場者へサンリオグッズのプレゼント品をご寄贈いただきました）

司 会：菊間千乃（弁護士・元フジテレビアナウンサー）

ビデオ出演：市川團十郎 東ちづる 木幡美子 ほか

#### ■小児がんの子どもたちの絵画展

会 期：2012年11月30日～12月2日 9：00～18：00（最終日のみ16：00まで）

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1998年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。本年度は44作品を展示し、3日間で600名を超える方々が来場されました。紙いっぱいに表現された子どもたちの豊かな心模様や添えられたメッセージに感銘を受けたとの声をたくさんいただき、啓発活動としての大きな成果を得ることができました。

#### ■チャリティマラソン

日 時：2012年12月2日（日）早朝（コース：横浜みなとみらい地区）

特別参加：浅井えり子、深尾真美、早乙女等、波戸康弘

一般参加者及び医療関係者など合わせて約100名の参加がありました。

### クラウンドクター事業

クラウンドクター事業は、全国各地の病院を訪問し、闘病中の子どもたちに楽しい時間を届けることを目的としています。本年度は、2012年11月14日、東京都立小児総合医療センターに、NHKの「おかあさんといっしょ」で8年の間、うたのおにいさんとして活躍されてきた坂田おさむさんのコンサートを届けました。

### ブース出展

小児がんの子どもたちへの支援を目的にした各種チャリティーイベント会場や小児がん関連の会合の会場にて、来場された一般の方々に、小児がんの現状や当会の活動等への周知活動や募金活動を実施しました。

### ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。本年度、ゴールドリボンをあしらったアクセサリを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。ゴールドリボンのバッジやチャームは約6,500個贈呈しました。

※500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのピンバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。



バッジタイプ



ストラップタイプ



シンボルイラスト

### 常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。本年度は51か所に設置のご協力をいただきました。

### 支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国23か所に設置していただいています。





## 8 国際活動

### 国際小児がん親の会連盟 (ICCCPO) への参加と協力

#### ■ICCCPO (The International Confederation of Childhood Cancer Parent Organisations) アジア会議、年次総会への参加

2012年4月21～23日にジョグジャカルタ（インドネシア）にて開催されたICCCPO アジア会議に、山下公輔理事長、石川幹雄事務局長および小児がん経験者2名の計4名が、また、10月5～8日にロンドン（イギリス）にてSIOP（国際小児がん学会）と同時開催された第19回ICCCPO年次総会に、理事長、職員1名、および小児がん経験者3名の計5名が参加しました。いずれも小児がん経験者の参加者は公募の上決定いたしました。

なお、ICCCPO全体の加盟国は2012年度年次総会にて85カ国158団体となりました。

#### ■PHPF (Parents Helping Parents Fund) への協力

発展途上国等のICCCPO年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に500ユーロの寄付を行いました。

### 国際小児がんの日の活動

#### 1) 啓発カードの配布

小児がんのことを広く知っていただくために啓発カードを作成。59箇所19,437枚配布しました。



#### 2) 国際小児がんの日 映画上映会

2月15日は国際小児がんの日です。それに伴い啓発活動として2013年2月14日に日比谷文化館にて「国際小児がんの日－映画上映会」を開催し、約100名の参加がありました。

##### 上映した映画

『風のかたち－小児がん仲間たちの10年－』

『大丈夫。－小児科医・細谷亮太のコトバ』

#### 3) 第6回小児がん経験者たちの日韓交流in関西

本年11月2日～4日、大阪において九州北支部及び関西支部の共催により韓国の小児がん家族、小児がん経験者及び韓国白血病小児がん協会のスタッフ等との交流会を開催した。テーマ別に親、経験者に分かれ活発な意見交換を行い、親交を深めた。

## 9 ボランティアコーディネート・研修会

### (1) 遊びと学習のボランティアたんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」とは、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児科病棟にボランティアを週1回派遣し、入院児を対象に遊びや学習支援活動を行っています。

本年度は、小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動でした。活動を行う上で必要なボランティアメンバー間のミーティングを6回（隔月）開催し、活動報告及び連絡ツールとして「たんぽぽ 新聞」を4回発行しました。また、同院のボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI-」の調整会議及び懇親会にも参加しました。

### (2) ボランティアコーディネート

本年度も、東京本部と大阪事務所で延べ496名の方からボランティア活動にご協力をいただきました。

また、当会にボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、当会の事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

## 10 日本小児血液・がん学会事務局

小児がんが不治の病であった1970年より、医師との協働の必要性から日本小児がん学会を支援するために事務局を受託してきました。本年度は、日本小児がん学会と日本小児血液学会が統合されて誕生した、小児がん及び小児血液疾患の基幹学会であるNPO法人日本小児血液・がん学会の事務局を引き続き受託し、学会運営のサポートをしました。



## 11 調査研究協力

### ■調査研究委託

2012年度の当会会員を対象にした調査研究の申請は2件あり、調査研究委員会にて審議ののち2件に被調査者を紹介しました。

研究名称	協力内容
「難病の子どもの親の会会員の小児慢性特定疾患治療研究事業に対する要望と期待」 認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク 委託研究代表：東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授 濱中 喜代	対象者：当会支部幹事各2名及び親の会 代表者各2名 計約60名 方法：郵送によるアンケート調査
「次期がん計画策定のためのアンケート」 鹿児島県保健福祉部健康増進課 委託調査者：特定非営利活動法人がんサポートかごしま	対象者：鹿児島県在任の会員 方法：訪問による聞き取り調査2名及び郵送によるアンケート調査約20名

### ■研究協力

研究名称	協力内容
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生 埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科	実行委員会委員
「がん診療におけるチャイルドサポート」 (厚生労働科学研究費がん臨床研究事業：小澤班) 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科	共同研究者
「がん対策推進基本計画とがん診療連携拠点病院の小児がん診療体制への適応に関する研究」 (厚生労働科学研究費補助金第3次がん総合戦略研究事業) 原 純一 大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科	研究協力

## 12 平成24年度年次大会開催

2012年6月17日、砂防会館（東京都千代田区）にて年次大会を開催しました。

全体会	分科会
理事長挨拶 活動報告 シンポジウム 「みんなで考えよう小児がん対策」 座長：檜山英三（広島大学病院 第一外科） 近藤博子（当会副理事長） 講演 「がん対策推進基本計画について」 木村 博承 氏（厚生労働省健康局がん対策・健康増進課） 「小児がんの子どもとその家族のトータルケアにむけて ～公と民のコラボレーション」 原 純一 先生（大阪市立総合医療センター 小児血液腫瘍科） グループディスカッション	1 個別医療相談 助言者：麦島秀雄（日本大学医学部附属板橋病院 小児科） 柳澤隆昭（埼玉医科大学国際医療センター 脳・脊髄腫瘍科） 2 子どもを亡くした両親のために 助言者：細谷亮太（聖路加国際病院 小児科） 3 小児がん経験者 助言者：石本浩市（あけぼの小児クリニック） 4 きょうだい 助言者：小澤美和（聖路加国際病院 小児科）

## 13 企業・団体からのご協力（敬称略・順不同）（\*ご寄付は別掲載）

### 物品寄付

株式会社ニッセン、特定非営利活動法人子供地球基金、株式会社スタイリングライフ・ホールディングス、プラザスタイルカンパニー、西洋フード・コンパスグループ株式会社、一般社団法人日本児童文芸家協会、ロート製薬株式会社、社団法人霞会館、株式会社サンリオ、株式会社ヤクルト本社、株式会社ガイア、東京上野東ライオンズクラブ、東京中央南ライオンズクラブ、コールマンジャパン株式会社、マムートスポーツグループ株式会社、株式会社東急ハンズ、第一生命労働組合、株式会社メンタルケアコーポレーション、有限会社ダイラズカンパニー、ギネスワールドレコーズジャパン、株式会社エコロインターナショナル、日本ペプシコーラ販売株式会社、協和発酵キリン株式会社、森永乳業株式会社、株式会社プロダクションパオ、株式会社ホリプロ、株式会社あすさ、株式会社毎日新聞社、川島成道音楽事務所、他

### ご招待

認定特定非営利活動法人朴の会、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、柏レイソル、株式会社オリエンタルランド、一般財団法人日本メイスン財団、他

### 募金活動他ボランティア活動等

ライフテクノロジーズジャパン株式会社、他

～その他支部宛てにもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～



# 寄付・募金者一覧

(2012年4月1日～2013年3月31日)

寄付・募金者一覧



## 寄付者一覧

※順不同・敬称略

アサヒグループホールディングス株式会社 アステラス製薬株式会社 アポットジャパン株式会社 アメリカンファミリー生命保険会社 アラコム株式会社 阿部 典子 愛知製鋼株式会社 虻川 多嘉子 安斎 紀 安達原 俊一 安藤 一美 安藤 頼枝 安藤 龍治 株式会社あーす 株式会社アイカム 株式会社アコーセラミック 荒井 経 荒井 達也 荒井 美代子 秋月 昭典 秋原 香織 秋山 清一 秋山 透 秋山 由美子 新井 正男 青井 まり子 青木 節子 青木 千賀 青野 幸治 赤根 宏行 赤崎 恵美子 浅井 えり子 浅井 智美 浅岡 恵美 浅見 俊郎 浅見 美紀 浅野 一郎 熱田 裕 網干 新吾 有限会社アトリエ・デ・くつきいず いのちのことば社 インターナショナル・アライアンス 株式会社 伊集 謙佑 伊藤 さゆり 伊藤 由紀 伊藤忠商事株式会社 伊野波 盛俊 伊野波 盛部 井口 祐美子 井上 雅美 井上 由紀子 井上 良秋 井田 正美 井田 陽子 磯部 直美 一瀬 すみ 一般財団法人医療情報健康財団 稲吉 正一 稲村 勝成 稲田 浩子 稲畑産業株式会社	稲葉 稔 株式会社伊予鉄高島屋 岩越 祥晃 岩間 苗美 岩佐 敏秋 岩崎 淳子 岩瀬 孝志 岩倉 良昭 岩谷産業株式会社 岩池 昌 岩田 吉郎 岩田 弘子 岩本 より子 岩本 雅也 岩崎 弘恭 五十嵐 千年 五百川 麻子 今井 正 今泉 英明 今泉 嘉宏 今野 多助 射越 学 石井 榮一 石橋 弘子 石原 貴泰 石原 節子 石原 融 石上 久美 石川 孝成 石川 幸雄 石川 隆造 石田 信明 石本 浩市 大引 啓次 大橋 芳之 池羽 啓次 池田 百合子 池内 位俊夫 池内 多喜 池邊 恵子 飯塚 敦夫 飯塚 忍 飯田 雅史 うみの塗装 右近 淳茂 臼倉 久代 臼田 弘 浦田 美沙子 株式会社梅原洋紙店 上原 雅彦 上田 公志 上田 晴雄 上田 典子 上島 亮 上別府 圭子 植田 豊 植木 理恵 内海 春代 内山 繁雄 内田 浩一 内田 淳次	AGC マイクロガラス株式会社 MSD 株式会社 エキスパート Life 株式会社 エリザベスアートスクール 榎本 政江 榎本 武 團部 かおる 延田 尚史 遠藤 春義 岸田 恭二 おがた歯科医院 おのうえこどもクリニック 越智 よしえ 塩見 志満子 奥 マサ子 奥出 てる子 奥津 弥太郎 奥浜 溶子 奥平 つむぎ 奥本 洋子 押淵 玲子 押野 昭信 岡崎 文代 岡村 栄 岡田 義雄 岡田 茂雄 岡本 義治 岡本 光代 岡本 功 岡本 幸一 岡本 武 沖広 紫帆 沖田 好子 株式会社オズインターナショナル 近江 恵子 緒方 博達 小原 克尋 小原 三紀夫 小山内 麻衣 小山内 理恵子 小川 貴弘 小川 久男 小川 和子 小谷野 末三 小田切 喜一 小野 千智 小野 智久 織茂 章則 太田 秀明 太田 裕 大久保 一恵 大久保 俊樹 大久保 照子 大橋 孝次 大栗 二郎 大欠 杉子 大原薬品工業株式会社 大江 登美子 大植 孝治 大西 省三 大川 由美	大蔵 隆彦 大沢 秀夫 大谷 妙子 大津 真由美 大塚 聡美 大坪 哲郎 大島 泰子 大島 眞樹 大藤 佳子 大木 須美子 大矢 善清 落合 章 落合 仁 影山 光太郎 影澤 政一 加治屋 博 加藤 孝 加藤 仁義 加藤 友和 加藤 祐介 加藤 里秋 加藤 廣久 加納 美津子 河合 明淑 河合 洋子 河出 トシ 花王株式会社 海田 由美子 垣水 孝一 角田 ひろみ 赫多 久美子 笠井 功治 笠井 千晴 梶原 千秋 梶原 敦子 梶山 祥子 桜澤 孝子 鴨下 叔弘 亀岡 倫子 金井 英憲 金山 直司 金子 清志 金子 美貴子 桂井 淳二 桂川 尚司 軽部 裕美子 兼松株式会社 香川大学医学部附属病院 勝井 豊 勝瀬 求 鐘ヶ江 隆義 進藤 玲子 菅野 マリエ 川口 弘二 川合 順子 川村 聖一 川村 哲也 大江 公江 川淵 郁代 川崎 幹子 片岡 秀子
---	---	---	---

片岡 昌子 片山 建二 片倉 政人 片野 マチ子 門田 かず子 キッコーマン株式会社 キッコーマン株式会社 労働組合営業支部 きらきら kids 都島保育園 衣川 直子 株式会社キャンパスサポート西南 喜多 幸之助 貴嶋 淳二 菊池 英之 菊池 匠 協和発酵キリン株式会社 九州大学病院 清田 啓子 北村 龍彦 北野 淳 木下 健 木下 成顕 木下 勇 木村 雅子 木村 吉隆 木村 菜美子 木村 守 木村 博史 木村 茂治 来海 秀次郎 来山 正義 株式会社クボタ 株式会社草むしり 久津間 ゆり 久布白 文子 久米 真弓 久保田 一男 久保田 隆三 久保木 裕子 久野 友子 榎田 幸代 窪田 健 窪田 正幸 熊崎 裕文 熊倉 直俊 熊谷 佐織 熊谷 則一 隈崎 哲也 栗山 宣夫 桑原 義信 黒羽 薫 黒岩 立子 黒田 英三 倉澤 泉紀 楠林 ミエコ 株式会社グランヒル大阪 解良 澄雄 げんき保育園 弦間 友紀 コカ・コーラウエスト株式会社 コットンキャップの会 株式会社コムネット 株式会社神戸製鋼所 興和株式会社 近藤 弘司 近藤 洋 駒村 幸雄 古賀 円 古賀印刷株式会社 古明地 和子 向後 建	向後 洋子 合同会社こころむすび 骨髄バンクを支援するやまがたの会 小野寺 南波子 込山 雅弘 一般財団法人厚生会 子供 優 児島 英樹 小宮山 裕 小橋 香織 小山 富美枝 小山 和久 小松 敬太郎 小松 仁 小泉 晶一 小島 昌子 小島 洋子 小島 利昭 小嶋 英雄 小嶋 美奈子 小幡 雅子 小林 貴浩 小林 久美子 小林 晃 小林 浩子 小林 信秋 神戸 智子 神野 恵子 ゴールドリボンオーキング実行委員会事務局 後藤 雅 後藤 敬子 NPO 法人 酒は未来を救う会 株式会社三平商会 境 正敏 佐々木 稔 佐藤 貴虎 佐藤 貴司 佐藤 光子 佐藤 浩 佐藤 浩樹 佐藤 真由美 佐藤 朝子 佐藤 由美 佐藤 礼子 佐伯 清人 佐野 ゆかり 佐野川 リョウ 佐野川 侑 佐用 敏彦 斎藤 雅 坂井 恵子 坂田 年 坂本 園美 坂本 晃一 坂本 博昭 坂本 八重 阪本 哲男 笹川 泰弘 笹川 裕幸 笹倉 茂 札幌・松下法律事務所 三井造船株式会社 酒井 あゆみ 酒井 信夫 酒寄 恵美 酒徳 浩之 斉藤 佳典 斉藤 孝 斉藤 秀子 石井 隆 相楽 宏	有限会社三響会企画 櫻井 かおり 澤田 はるみ 澤田 敦子 齋藤 聡 齋藤 茜 CBC 株式会社 Chris Lawson Coeur Hair 一般社団法人信託協会 遠藤 明 塩見 安男 下山 政行 株式会社シミズ 株式会社シミズ・ビルライフケア関西 株式会社資生堂 株式会社証券保管振替機構 四国コカ・コーポリング株式会社 四国フィルハーモニー管弦楽団 志村 朱美 穴倉 洋一 篠井 智恵子 篠原 慶子 篠田 章 篠田 ミサ子 柴田 芳春 柴田 和子 渋江 美恵子 重山 千枝 重村 倫成 庄司 恵子 新川 奈須香 新日鐵住金株式会社 仁科 孝子 椎名 延年 島田 健司 嶋 康子 白井新薬株式会社 白神 洋子 白土 義男 JFE スチール株式会社 JX ホールディングス株式会社 株式会社ジェイアール東海高島屋 住正文 住金物産株式会社 住友商事株式会社 助川 悦子 吹田 健吾 水柿 多香子 杉山 有子 杉村 泰枝 杉本 束 杉本 徹 杉本 磨砂夫 杉本 洋一 菅原 朝子 菅原 朋子 末延 聡一 鈴木 亜津子 鈴木 久夫 鈴木 孝俊 鈴木 三知子 鈴木 晶子 鈴木 信寛 鈴木 正 鈴木 千穂 鈴木 中人 鈴木 美文 鈴木 万里子 関沢 敏美	関本 志津子 社団法人生命保険協会 世古口 健 聖路加国際病院ボランティアグループ 一般社団法人 全国銀行協会 双日株式会社 相川 勝 タダノハートフルポケット 為井 正博 株式会社高橋組 株式会社高島屋 玉井 克明 玉城 美由紀 玉野 悦子 高下 雅巳 高宮 静男 高橋 光明 高橋 正行 高橋 正明 高橋 卓人 高橋 里美 高橋 和寛 高橋 和子 高原 登代子 高松 英夫 高島 眞千子 高嶋 利彦 高木 猛 高澤 仁司 種田 寛 竹川 和憲 竹内 孝子 竹部 真那美 田旗 孝夫 田坂 英子 田代 修 田代 美知 田中 吉男 田中 潔 田中 源十郎 田中 達男 田中 芳郎 田中 利洋 田中 玲子 田添 俊昭 田島 正美 田畑 しおり 田辺三菱製薬株式会社 田野 昭 武石 香 武田薬品工業株式会社 平 哲也 平 富美子 宝田 知子 立石 尚子 高橋 健 高橋 晶子 高瀬 一博 高瀬 霜石 高木 早苗 大同特殊鋼株式会社 大日本住友製薬株式会社 地球を守る大和基金 中外製薬がん患者支援チャリティコンサート 中外製薬株式会社 中外製薬労働組合ほけっと基金 張 光陽 蝶名林 正三 蝶理株式会社 有限責任事業組合チャイルドケア研究所
--	---	---	--





月本 一郎 築地7丁目町会婦人部 津田 留美 塚原 清志 塚田 薫代 塚田 哲男 辻 尚人 辻林 温子 椿井 イク子 鶴貝 大祐 鶴嶋 迪子 土田 昌宏 寺田 周弘 寺田 昌史 手納 朋子 株式会社ディ・フォース・インターナショナル 株式会社電通 古本市の会 電気事業連合会 TRY Jazz Music Office トビー工業株式会社 戸賀崎 博保 戸田 寛史 一般財団法人凸版印刷三幸会 十亀 祥晃 鳥沢 竹彦 殿畑 正生 土岐 憲二 東京コカ・コーラボトリング株式会社 東洋英和女学院小学部母の会 徳野 文朗 富岡 晶子 富山福祉短期大学 富士生命保険株式会社 富士電機株式会社 富張 喜代子 富田 昌美 豊田 和子 豊田通商株式会社 友寄 妙子 利根コカ・コーラボトリング株式会社 土手 多喜子 土肥 孝治 土肥 純門 ナカイ株式会社 永原 勢津子 株式会社浪花組 成 祐京 成田 佳紡里 成田 幸子 成田 隆澄 成澤 一浩 中根 淳子 中山 志津江 中山亜紀先生を偲ぶ会 中川原 章 中村 克彦 中村 美智子 中村 裕子 中台 祐子 中田 政和 中島 久子 中島 恵子 中島 功博 中島 康博 中島 裕介 中道 智子 中鉢 鈴子 中尾 モニカ 中尾 憲治 中野 雅博	中野 薫 中野 小都美 中野 洋子 中澤 弘美 長江 義子 長手 明美 長瀬産業株式会社 長野 賢 那須 亮介 内藤 修 内藤 真一 南部 昌弘 名和 久子 ニコニコ鍼灸整骨院 上新庄院 一般財団法人日本メイスン財団 一般社団法人日本 CL 学会 一般社団法人日本ガス協会 株式会社日本製鋼所 一般社団法人 日本建設業連合会 一般社団法人 日本民営鉄道協会 新潟総合警備保障株式会社 新村 昌弘 新里 マルセル 諏訪二葉高校同窓会東京支部 西郊 信子 西川 健一 西田 将之 西田 知佳子 西日本ビレレッジ株式会社 西尾 温文 西尾 隆 西部 雅 西本 由美子 二井 立恵 二宮 道子 二宮 和也 日新製鋼株式会社 日本生命保険相互株式会社 日本製紙連合会 日本労働組合総連合会 有限会社築地にっしん太助 ノバルティスファーマ株式会社 延地 良子 野口 智子 野口 雄司 野口 里子 野崎 孝子 野崎 美和子 野上 辰男 野村 芳明 野中 淳代 野田澤 郁子 野母 とし子 野母 羊子 野澤 信雄 Harvey Paul A.S. ハートリンク ハーレーダビッドソン ジャパン株式会社 はたみや すすむ 橋口 三夫 橋口 正子 橋都 浩平 橋本 宜久 橋本 里実 原村 利男 原田 明夫 原田 裕子 原田 庸江 公益財団法人原田積善会 阪和興業株式会社	初谷 令子 早川 晴巳 増田 勝治 長谷川 高彦 長谷川 伸布子 長谷川 朝直 萩原 明子 箱田 ちさ 服巻 秀明 服部 祥子 蓬台 浩明 蓬台 舜介 有限会社吉半 林 正 林 富 林 雅彦 林 志郎 林 次郎 林 修治 林 清子 林 葉子 濱田 諭奈 パナソニック株式会社 株式会社日立ハイテクノロジーズ 久和 勲司 公益社団法人広島南法人会 広瀬 徹也 広島県・広島市・アフラック 東山 裕徳 比嘉 温子 樋高 涼子 桧垣 信重 氷見 三佐子 平井 克彦 平井 俊彦 平井 博夫 平沢 一 平田 優子 平野 朋美 平澤 修一 廣谷 妙子 深澤 重幸 フットケアサロン那由他 古市 順子 古川 公平 古田 和三 社団法人不動産協会 深澤 晋 船曳 哲典 藤井 睦史 藤永 詩乃美 藤原 悠二 藤網 みどり 藤村 正 藤村 由貴子 藤田 昶子 藤平 一雄 藤澤 好一 普連士学園 宗教委員会 福岡聖書キリスト教会 福山 茂 福生 泰彦 福地 誠一郎 福田 佳子 福島 章 福島 猛 文月会 (会長 矢部博) ぶらす1リフォーム プリシュケ ヴォルフガング ブルデンシャル生命株式会社	富山支社 株式会社ヘルシーライフ ベルテック トレーディング株式会社 株式会社ベネフレックス 別所 文雄 株式会社北海道パークゴルフコンサルタント ホセ・カレラス ファンクラブ 白血病基金 株式会社堀野工務店 細井 廣一 細田 裕美 星野 真一郎 星野 貞夫 認定特定非営利活動法人朴の会 北条 哲成 北條 洋 堀川 哲男 堀川 洋一 本間 信雄 本田 孝雄 株式会社ポイント 株式会社マリブ 間島 隆文 間野 理香 丸紅株式会社 丸山 康太郎 丸山 三郎 丸山 昭司 蒔田 義彦 松井 啓造 松井 秀文 松浦 晋吾 松永 好 松永 憲一郎 松下 さよ子 松原 善明 松阪 直美 松崎 彰信 松川 誠司 松川 敏大 松村 伸子 松谷 雅生 松田 信夫 松田 優子 松本 敬子 松本 章一 松本 千賀子 松本 宙 松本 陽子 松本 陽代 前川 雅子 前田 秀子 総会バザー実行委員会 毎日新聞東京社会事業団 又吉 厚 有限会社 松田興業 眞尾 貴年 横 富貴子 皆川 八重子 宮の台幼稚園バザー委員会 宮田 衛 宮内 明美 宮澤 敦子 光井 瑞穂 光野 優 三井物産株式会社 三浦 厚子 三浦 素子 三橋 治美 三栖 健児 三川 勝夫
--	---	--	---

三宅 恒 三菱商事株式会社 水江 伸夫 水島 正人 峯 真人 峯岸 直子 民部 晃正 有限会社ミートステーション 向田 仁美 室谷 哲哉 室内 由香 速水 節子 村井 実 村越 美香 村松 毅 村上 義樹 村上 恭子 村上 智是 村部 伸行 村本 君代 牟田 謙一 NPO法人 目黒ユネスコ協会 メンバーズブルー ジュ 渡邊 直美 もりの木こどもクリニック 元野 英雄 森岡 俊夫 森下 さふみ 森下 寛子	桃井 猛 望月 宏子 本山 里江子 安井 雄三 安居 隆光 安田 知佳子 安野 啓一郎 屋宜 晴美 山岡 祐輝 山下 公輔 山下 早苗 山下 明美 山口 悦子 山口 智行 山口 利子 山崎 貴子 山崎 文之 山室 達夫 山城 円 山田 佳典 山田 勝三 山田 晋一 山田 成晃 山田 豊 山田 容子 山田 理 山田 隆之 山内 嘉彦	山本 逸子 山本 栄 山本 佳子 山本 均 山本 圭子 山本 章子 山本 信江 山本 博三 山本 裕子 山本 照子 山梨 秀雄 大和地 敬行 矢藤 和義 矢澤 康男 柳瀬 志津子 柳沢 竜彦 柳澤 隆昭 楊井 正紀 藪田 和也 ゆうた 株式会社悠香 結城 圭子 油谷 友紀 由木 晴海 横山 隆 横山 茂 横浜冷凍株式会社 横幕 嘉久	株式会社淀川製鋼所 吉岡 佑樹 吉川 紀男 吉田 牧子 吉本 幸司 米山 望 米倉 竹夫 米倉 邦子 ライフテクノロジーズジャパン株式会社 ラッセル・インベストメント株式会社 リプラス株式会社 立教新座中学校・高等学校セントポール会 ROOM - FRIEND10 - recife ロート製薬株式会社 ローレント マイケル 若山 拓也 若杉 和枝 渡部 珂千子 渡辺 英治 渡辺 恵子 渡辺 千香江 渡辺 裕之 渡邊 直美 鷲田 昌子
--	---	--	--

上記の他、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、ペアレントハウス運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（8,215件）を通じて、ご支援をいただきました。

## 募金者一覧

anella kitchen あい・らいふ保険 愛知医科大学医大祭実行委員会 荒井 達也 新井 美栄 淡路島グリーンガーデン 伊澤 康子 株式会社 一の宮カントリー倶楽部 銀座 いちべえ 荻窪店 石原 節子 木曜会 池田 久美子 有限会社 石原百貨店 USHIO 梅田 竜嗣 FPL アセットマネジメント株式会社 NKS Jひまわり生命保険株式会社 エコプラス小倉南店 江頭 邦男 おおはま 小原 弘子 大城 一郎 河本 憲子 金子 輝世志 公益財団法人がんの子どもを守る会を応援する会 キャピタル・パートナーズ証券株式会社	きらきら kids 都島保育園 株式会社京都インシュランス 國吉 佐和子 株式会社グラビティ保険 けやき保育園 株式会社サミック・インターナショナル 株式会社サンジェルマン 吉村 幸一 株式会社サンボウ 佐藤ゼミ・佐藤 貴虎 坂口 正敬 坂本 まゆみ 榊原 清康 良酒処 さぶん酒店 Shop ART 庄屋 勝代 JOY ダンスクラブ ステンドグラス工房 ROPE 菅原 朝子 鈴木 太一 聖路加メサイア 聖路加国際病院小児医療センター 全日食チェーン ザ・せと店 田名 勉 第一生命株式会社 長崎北部営業オフィス 第一生命保険株式会社 新坂戸営業オフィス	第一生命労働組合 佐賀営業職支部 第一生命労働組合上野営業職支部 第一生命労働組合都心総合営業職支部 中外製薬がん患者支援チャリティコンサート 鶴澤 正仁 有限会社 築地にっしん太助 医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック 株式会社デフィ 伝統芸能の今 株式会社東栄工業 drum STORNG JAPAN 中田中央歯科医院 難波 毅 株式会社エイト 西萩勝手口ひまり屋 日大板橋病院・小児科外来 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 日本生命保険相互会社 日本生命保険相互会社 水上組織 日蓮宗 妙像寺 株式会社 治田タイヤ 有限会社酒ハウスヤマヤ 吉祥寺 ひまり屋 彦井 浩孝 フィンランドのお話と音楽を聴く会 古川 千鶴	藤本 哲男 富士生命保険株式会社 株式会社プレミアバンク 株式会社 ヘルシーライフ 北京 高棚店 MCNIE JOHN SHIGEO 曲田 裕矢 松島 由美 政岡 厚子 前之園 広一 眞鍋 馨 メンバーズブルー ジュ 渡邊 直美 山陸 康博 株式会社 UCS 湯浅 信孝 有限会社ユニバーサル・リスク・コンサルティング 横幕 真紀 ライフテクノロジーズジャパン株式会社 リコ・プア・ケア・フラススタジオ リサイクルルームフォレスト 林かおり レスリーチャンネル募金 ローカル 小田良一 ローソン浜寺石津西4丁目
--	--	--	---

他、多数の方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

**公益財団法人 がんの子どもを守る会 2012年度事業報告書**

2012年4月1日～2013年3月31日

2013年6月3日 発行

**公益財団法人 がんの子どもを守る会**

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12  
TEL 03-5825-6311(代表)